足踏みミシン 国際ボランティア活動

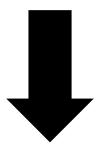
大分工業高等専門学校 足踏みミシンボランティア 3年 吉武愛佳 2年 箕井梨乃



ボランティアのきっかけ

<平成15年度>

大分県青年国際交流機構



足踏みミシン 修理依頼

大分高専

足踏みミシンボランティアの活動スタート!

足踏みミシンについて

1960年代まで活躍。 踏み板を踏む力をベルトの回転を通して伝えることで動力源としたミシン。



発表のコメント: 定期的に油を注さないと動きが悪くなります。

学校での活動内容

毎週木曜日4時から7時まで活動

- ① 本体分解
- ② 部品みがき
- ③ 本体・台をみがく
- ④ 組み立て
- ⑤ ミシン油の注油
- ⑥ ベルトの取り付け
- ⑦ 試運転

完成!



H25年度 21名在籍					
学科	男	女	計		
M科(機械)	2	1	3		
E科(電気)		1	1		
C科(都市·環境)	1	6	7		
S科(情報)	6	4	10		

- 主に先輩と後輩でペアを組み 教えていく
- ◆ わからないときはミシン歴が長い 先生たちに教えてもらう





学生数・修理したミシン

年度	活動人数(延べ) M:男, F :女	足踏みミシン	贈呈ミシン	
		学内	東南アジア	知主ヘンン
15	11名/M10,F1	18台		18台
16	5名/M5	10台		
17	17名/M8,F9	25台		2台
18	12名/M4,F8	40台		
19	11名/M2,F9	34台	10台	30台
20	17名/M2,F15	24台	9台	20台
21	17名/M4,F13	20台	4台	20台
22	17名/M4,F13	15台	4台	15台
23	21名/M8,F13	40台		40台
24	17名/M8,F9	23台		23台
25	21名/M9,F12	20台		20台
合計	166名	269台	27台	188台

渡航した国



フィリピン共和国 活動内容





発表のコメント: 平成25年12月23日~28日間に、現地へ渡航した際の活動内容の報告になります。

フィリピンへのミシン寄贈への経緯

フィリピン友好協会会長 の 吉武ロドラさん





大分高専 ミシンボランティア部 発表のコメント: 私達が、修理した足踏みミシンがフィリピへ送られることとなった経緯ですが、大分県フィリピン友好協会会長である 吉武ロドラさん からフィリピンの貧困問題を通して、足踏みミシンを地域自立支援の足がかりにしたいという説明を受けたことより始まりました。

フィリピンへのミシン寄贈への経緯



を必要としない 足踏みミシン



支援

フィリピンの

経済的自立

大分県フィリピン友好協 会の全面的協力

発表のコメント: 電気の供給が不安定な地域では、電気を必要としない足踏みミシンはとても需要があります。

私たちの足踏みミシンの寄贈や今回のような渡航は、この大分県フィリピン友好協会の全面的バックアップによって成り立っています。

フィリピン渡航の目的

- ●ミシンの使用状況の視察・確認
- ●ミシンの修理・メンテナンス技術の指導
- ●現地の子どもたちとの交流

技術指導



地域自立支援センター スタッフ

発表のコメント: 今回のフィリピン渡航の目的は、現地での足踏みミシンの使用状況を視察し、地域自立支援センターのスタッフの皆さんに足踏みミシンの修理やメンテナンスの仕方を習得してもらうこと、現地の子供たちと交流することです。

現地でのミシンの使用状況

St. John Bosco教会→



センターに届いた 台風被害の支援物資



発表のコメント:この渡航では、フィリピン国内の地域自立支援センター4箇所の内、2 か所を視察しました。

1箇所目はSt. John Bosco教会の訪問しました。この教会のなかにある、地域自立支援センターに足踏みミシンを贈呈しています。

このセンターは台風や豪雨等の自然災害及び貧困による孤児等への支援組織です。 訪問した日はフィリピン共和国全体がクリスマス休暇でしたので、ミシンが使われてい る様子は見ることができませんでしたが、

この教会の神父さんから センターのスタッフが1日三交代制で縫製品を作製し、それを販売して収入を得ているという普段の様子を伺うことができました。

今までに贈呈したミシン



発表のコメント: 訪問した日は、フィリピン共和国全体がクリスマス休暇でしたので、足踏みミシンが使われている様子は見ることができませんでしたが、この教会の神父さんから センターのスタッフが1日三交代制で縫製品を作製し、それを販売して収入を得ているという普段の様子を伺うことができました。

現地でのミシンの使用状況







ロドラさんによる説明

発表のコメント: パンパンガ州に移り、2か所目の視察はSanto Rosario教会で行われました。

ロドラさんより普段の活動で使用する材料の布や、メイドイン フィリピンの良さ、活動によって安定した収入を得ることや貧困な家庭の子どもが就学できるようになったことなど、説明を受けました。

"大分高専足踏みミシンボランティア部"ステッカーが貼ってある足踏みミシンを現地の方が使っていることを聞くと、我々の活動が役にたっているんだな、と実感することができました。





すでに贈呈した足踏みミシン



技術指導を行う教会へ移動



発表のコメント:ここから地域自立支援センターのスタッフへの技術指導の活動報告を紹介します。 まず大分県フィリピン友好協会が4箇所の地域自立支援センターに送る予定のミシン20台のうちから数台を活動を行う教会に移動させました。

足踏みミシン修理技術指導 ルソン島 パンパンガ州 SANTO ROSARIO教会へ



発表のコメント: その教会というのはこちらのSanto rosario教会です。ここの多目的ホールで修理指導を行いました。

修理指導中



発表のコメント:こちらは活動中の様子です。各班2名の学生が主体となり技術を伝えます。部員9人で12名のスタッフにミシン修理の 指導を行いました。普段学校でしている一連の作業を教えていきます。

足踏みミシン修理マニュアルというものがあるのですが、それを英訳したものを用いて説明するのですがほぼマニュアルなしで 英単語 や身振り手振りを使って説明します。修理する上でのポイントやメンテナンスのやり方などをレクチャーしました。

修理指導中



発表のコメント:足踏みミシンは現地の人にとって収入を得る手段であり、彼らの生活が少なからずかかっています。 けっして流暢などではない私たちの英語を、スタッフたちは真剣に耳を傾けてくれます。 私たちはそれに応えれるようこちらも真剣に指導をしました。

修理指導中



発表のコメント:縫う工程、メンテナンスの仕方まで完璧に身につけ、1台のすべての工程を終えるといっしょに拍手をして笑顔で喜び合いました。

子どもたちとの交流





発表のコメント:この写真はこの日来てくれたたくさんの子供たちです。キラキラしたまなざしで元気いっぱいでした!お菓子をプレゼントしたり、フィリピンではめずらしい シャボン玉や風船などを使って時間を忘れて遊びました。この子たちの笑顔を未来へ繋ぐ手助けができていると思うと 胸が熱くなりますし、また我々 大分高専足踏みミシンボランティアの活動の意義というものを再確認することができました。日本にいては感じることのできないフィリピンの現状を自分たちの目で見ることができました。

今後の目標

- ミシンボランティア学生の修理技術力の向上と伝承。
- 東南アジア貧困層へのミシン贈呈継続。
- ミシン活動を継続させるための、活動資金の確保。



発表のコメント: 最後に私たちの今後の目標です。

国際交流基金 地球市民賞



発表のコメント: 2012年度3月に大分県からは初めてとなる「国際交流基金 地球市民賞」を」授賞しました。